

自立活動学習指導案

単元名「歩行器で友達や先生に会いに行こう」

令和5年11月 2、3年 指導者 T1林 圭佐 T2〇〇 〇〇 T3〇〇 〇〇

I 単元の構想

1 単元観

対象とする生徒は高等特別支援学校3学年2名、2学年1名の生徒で3名とも重度重複障害である。

Aは、短下肢を着用して歩行器にまたがると自分で脚を動かして、行きたい方向に進むことができる。人と関わることが好きである。自分の予期しない関わり方をされると、落ち着かずに感情的になることがある。また、写真カード等の視覚支援教材で、活動の見通しをもつことができるが、予定の変更を受け入れることが難しい。自分の予期しない関わり方や予定の変更等で感情的になったときに、教師とやり取りをしたり、場所を移動して場面を切り替えたりすると、気持ちを落ち着かせて受け止めることができる。本単元では、生徒が予期しない教師の関わり方を意図的に設定したり、活動中に予定の変更を伝える時に、教師とやり取りをすることで感情的になることを抑えたり、活動内容を受け止めて取り組んだりすることを目標とした。

Bは移動・移乗ともに全介助を要する。人と関わることが好きで、呼びかけられると視線を向けることができる。周囲の物や人の声が気になり、よく周りを見回している。SRC-Wで校内散策をする時に特定の人に声をかけられたり、歌を歌ってもらったりすることが好きである。特定の人に会いに行くことを、写真カードを提示して伝ええると、視線を向けることができる。一定時間特定の人や物を注視することが難しい。本人が好きな人や物に対しては、高い興味や関心があるため、注視することもある。人と関わる時に、呼びかけられると身体表現や発声で答えることがある。自分から相手に身体表現や発声で働きかけをすることはあまりないが、自分の近くにいる教師を発声で呼ぶこともある。本単元では、歩行器での校内散策において、友達や先生に会いに行くことを目的とし、関わる中で楽しい経験をし、また会いに行きたい、という気持ちを高め、提示した写真カードや相手を注視したり、相手の存在に気が付いたときに身体表現や発声をして自分から働きかけをしたりすることを目標とした。

Cは人と関わることが好きで、人から話しかけられると、顔を上げて相手を見る様子が見られる。しかし、特定の物を好んだり人からの働きかけがあっても反応しないことが多かったりと、興味があることが限られている様子も見られる。日常的にカーペットの上で過ごすことが多く、自ら動ける範囲は限られているが、歩行器を使用すると、行きたい方向へ考えながら歩く姿が見られる。本単元では、歩行器での構内散策において、行きたい場所に歩き、多くの物や相手の存在に視線を向けたり、手を伸ばしたり、引いたりして気持ちを伝えるなど、受け身ではなく、自ら働きかけをすることを目標とした。

2 研究との関わり

本研究では、重度重複障害児の社会参画を踏まえた自立活動の充実に取り組んでいる。自立活動の「人間関係の形成」と「環境の把握」の2区分9項目において、人と関わる力の育成を図る上で、研究協力校（以下、協力校）と生活介護施設にアンケート調査を実施し、その両方の視点を分析することで、学校から社会へとつながる力を目指した実態把握表を作成する。その実態把握表を活用した自立活動の指導で、卒業後の生活を見越した力の育成またその基礎・基本となる力の育成を図ることができると考える。協力校の特色として、自立活動の時間は身体の学習に特化した学習活動が展開されることが多いが、そのねらいを「人間関係の形成」や「環境の把握」に焦点をあてることで、どのような活動内容であっても人と関わる力の育成を図ることができると考える。その手立てとして、実態把握表と連動したチェックシートを作成した。授業実践①では、先行研究を基に作成した仮の実態把握表を用いて、チェックシートをタブレットで使用して本時のねらい（付きたい力）や活動内容、手立てを定めることと、タブレットで授業前後や授業時にねらいを確認したり授業後に短時間で評価を記録したりすることの有効性を検証することができた。本実践では、アンケート調査を経て得られた協力校と生活介護施設の両方の視点を、仮の実態把握表に反映して作成した178項目の実態把握表とチェックシートを用いて行う。本単元においては、自立活動の区分「身体の動き」と結び付きやすい、目と手の協応を図った教材操作の活動を中心とした自立活動の時間において、「人間関係の形成」や「環境の把握」に焦点化したねらいを意識し、スモールステップで指導することで、単元を通して一貫した指導を行い、生徒の変容を段階的に捉えやすくして、人と関わる力を育てることができたかを検証したい。

3 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
A	・教師とのやり取りを通して、気持ちを落ち着かせて、人と関わったり、予定の変更に応じたりすることができる。	・人と関わることが好きである。自分の予期しない関わり方や、予定の変更に対応することが難しく、感情的になることが多い。
B	・相手を注視したり、自分から身体表現や発声で働きかけをすることができる。	・周囲の物や音に注意を向けてしまうことが多く、一定時間、人や物を注視することが難しい。自分から相手に身体表現や発声で働きかけをすることはあまり見られない。
C	・様々な物に視線を向けたり、様々な人に手を上げてあいさつをしたり、手を引いたりして働きかけをすることができる。	・人と関わることが好きだが、興味がないと反応を示さないことがある。教師からの働きかけで関わる事が多く、自分から人に働きかける姿はあまり見られない。

4 評価規準

A	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の願いとは異なる関わり方を受け止めたり折り合いをつけたりして、相手とやり取りをすることができる。 (3 人間関係の形成 (3) 自己の理解や行動の調整) ・予定の変更を受け止めて、変更した行先に自分で向かうことができる。 (4 環境の把握 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動)
B	<ul style="list-style-type: none"> ・関わる人に身体表現で自分の気持ちを伝えることができる。 (3 人間関係の形成 (1) 自己の理解や行動の調整) ・提示した物や会った人に顔を向けて、注視したり追視したりすることができる。 (4 環境の把握 (1) 保有する感覚の活用)
C	<ul style="list-style-type: none"> ・会った人に手を使ってあいさつをしたり、自分の気持ちを伝えたりすることができる。 (3 人間関係の形成 (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること) ・提示された物や会った人に、顔を上げて注視したり追視したりすることができる。 (4 環境の把握 (1) 保有する感覚の活用)

5 指導及び評価、ICT活用の計画（全7時間）

時間	<p>■ねらい</p> <p>□学習活動</p> <p>★ICT活用に関する事項</p>	◆評価項目＜方法（観点）＞
2	<p>■人に会いに行く活動に対して、視覚的支援で見通しをもち、活動に取り組むことができる。</p> <p>□会いに行く人や行先を教師とやり取りする中で決める。</p> <p>□次に会いに行く人や行先を写真カードやタブレットの画面で確認する。</p> <p>★大きいテレビ画面で歩行器や生徒自身が歩行器の活動をしている様子、会いに行く先生や友達の画像を提示して、活動に見通しがもてるようにする。</p> <p>★タブレットでチェックシートを確認できるように持ち運んだり、手元に置いたりする。</p> <p>★活動の様子をタブレットで撮影し、テレビ画面につなげて振り返りをする。</p>	<p>◆（A）提示された会う予定の人や行先を確認し、気持ちを落ち着かせて会いに行くことができる。＜観察＞</p> <p>◆（B）提示された写真カードやタブレット、会った人に視線を向けたり、何らかの反応を示して気持ちを伝えたりすることができる。＜観察＞</p> <p>◆（C）提示された写真カードやタブレット、会った人に視線を向けることができる。＜観察＞</p>

3	<p>■前時の学習を振り返り、見通しをもって学習に取り組むことができる。</p> <p>□会いに行く人や行先を教師とやり取りする中で決める。</p> <p>□次に会いに行く人や行先の予定変更を写真カードやタブレットの画面で確認する。</p> <p>□（A）予定の変更に対して受け止めが難しい場合は、教師とのやり取りや気持ちを落ち着かせる環境設定を通して支援をする。</p> <p>□（B、C）会った人に視線を向けたり、会いに行った人に自分から働きかけをしたりする。</p> <p>★タブレットで生徒が活動している様子の写真を提示して、前時を振り返り、本時の活動の見通しがもてるようにする。</p> <p>★タブレットでチェックシートを確認できるように持ち運んだり、手元に置いたりする。</p> <p>★活動の様子をタブレットで撮影し、テレビ画面やタブレットで振り返りをする。</p>	<p>◆（A）提示された会う予定の人や行先の予定変更を受け止めて、気持ちを落ち着かせて次の行動に移ることができる。　　<観察></p> <p>◆（B）提示された写真カードやタブレット、会った人に視線を向けたり、発声で気持ちを伝えたり、相手に挨拶をしたりすることができる。　　<観察></p> <p>◆（C）提示された写真カードやタブレット、会った人に顔を上げて視線を向けたり、何らかの反応で一定時間やり取りをしたりすることができる。　　<観察></p>
2	<p>■前時の学習を振り返り、見通しをもって学習に取り組むことができる。</p> <p>□会いに行く人や行先を教師とやり取りする中で決める。</p> <p>□（A）予定の変更を写真カードやタブレットの画面で確認する。予定の変更や自分の願いとは異なる関わり方に対して受け止めが難しい場合は、教師とのやり取りや気持ちを落ち着かせる環境設定を通して支援をする。</p> <p>□（B、C）会った人に視線を向けたり、自分から働きかけをしたりする。</p> <p>★タブレットで生徒が活動している様子の写真を提示して、前時を振り返り、本時の活動の見通しがもてるようにする。</p> <p>★タブレットでチェックシートを確認できるように持ち運んだり、手元に置いたりする。</p> <p>★活動の様子をタブレットで撮影し、テレビ画面やタブレットで振り返りをする。</p>	<p>◆（A）予定の変更や自分の願いとは異なる関わり方を受け止めて、気持ちを落ち着かせて次の行動に移ることができる。　　<観察></p> <p>◆（B）提示された写真カードや会った人に顔と視線を向けたり、握手などの身体表現で気持ちを伝えたり、相手に挨拶をしたりすることができる。　　<観察></p> <p>◆（C）提示された写真カードやタブレット、会った人に顔を上げて視線を向けたり、相手に手を使って挨拶をしたり自分の気持ちを伝えたりすることができる。　　<観察></p>

Ⅱ 第1時の学習

1 ねらい

（A）歩行器で友達や先生に会う活動を通して、教師とやり取りをする中で、予定を確認して落ち着いて活動に取り組むことができる。

（B）歩行器で友達や先生に会う活動を通して、相手に視線を向けたり、何らかの反応で気持ちを伝えたりすることができる。

（C）歩行器で先生に会う活動を通して、教師とやり取りをする中で、会いに行く先生や行先の写真を見て確認して、会った人に視線を向けたりすることができる。

2 展 開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動	〔S〕予想される生徒の反応 ○指導上の留意点 ◆評価項目		
	A (T1)	B (T2)	C (T3)
1 はじめのあいさつをする。 (3分)	<p>○「始めのあいさつをしてくれる人？」と問いかける。</p> <p>○あいさつをする意思を示した生徒が、教師と一緒にあいさつができるように「これから自立活動の学習を始めます。注目。」と言った後、「礼」の号令を促す。</p>		
	S：号令に合わせて、ハイタッチで礼をする。	S：号令に合わせて、視線や身体表現で礼をする。	S：号令に合わせて、ハイタッチで礼をする。
2 歩行器で友達や先生に会いに行く準備をする。 (7分)	<p>○活動内容や会いに行く人をテレビ画面やタブレット、写真カードで提示して、本時の予定を伝える。</p>		
	S：会いに行く友達や先生、また行先の確認したら、教師にハイタッチをする。	S：会いに行く友達や先生、また行先の確認したら、移乗時に協力動作を取る。	S：会いに行く先生や行先の確認したら、教師とハイタッチをする。
	<p>○活動内容を確認した後、バギーから降りて歩行器に乗る支援をする。</p>		○歩行器に乗る支援をする。
	S：歩行の準備のために、補装具を着用するときには教師に身体を預けている。 S：SRC-Wに乗って、脚を動かして廊下に向かう。	S：SRC-Wにライダーポジションで乗り、教師の支援を受けて移動する。	S：歩行器に乗って、脚を動かして廊下に向かう。
	<めあて> 予定を確認して、落ち着いたで会いに行こう。	<めあて> 相手をよく見て、あいさつをしよう。	<めあて> 相手を見て、あいさつをしよう。
3 歩行器で友達や先生に会いに行く。 【★記録・撮影】 (30分)	<p>○学習の振り返りで活用するために、生徒の活動の様子を写真や動画で記録する。</p>		
	S：教師から提示された人に会いに行くために移動をする。		
	<p>○会う人や行先の写真を再度提示し、生徒が行きたいという気持ちを高めることができるようにする。</p> <p>S：教師から提示された写真カードやタブレットの画像を見て、会う人や行先を再度確認している。</p>		
	S：会いに行く人や行先を確認して、写真カードを触ったり、教師へハイタッチで確認の返事をしたりする。		
	S：会った人とあいさつをしたり、やり取りをしたりする。		
	○相手の存在を伝えて顔を上げて視線を向けたり、関わりたい気持ちを伝えたりするように促す。 S：相手に対して視線を向けてやり取りをする。	○相手に視線を向けて注視をしたり、うれしい気持ちをもったりすることができるように、話しかけられたり歌ってもらったりする場面を設定する。 S：相手に対して視線を向けて注視したり、何らかの	○相手の存在を伝えて、視線を向けたり、関わりたい気持ちを伝えたりするように促す。 S：相手に対して視線を向けてやり取りをする。

	反応で自分の気持ちを伝えたりする。	
	○やり取りが終わったときに、さようならのあいさつをするように促す。	
	S：ハイタッチであいさつをする。	S：何らかの反応で、あいさつをする。
	○次に会いに行く人の顔写真や行先の写真を提示する。 S：教師から提示された人のところや場所に向かうため移動をする。 ※対象の人や場所を変えることで、いろいろな人に関わることや環境の変化を感じることを目的とし、歩行器で移動し、人に会う同じ活動をさらに2回繰り返す。	
	○活動を3回行った後、教室に戻ることを口頭または写真カードやタブレットの提示で伝える。 S：穏やかな気持ちで教室に戻る。	
4 本時のめあてに対して、学習内容を振り返る。 【★写真や動画の視聴】 (8分)	◆評価項目 (A) 予定を確認して、気持ちを落ち着かせて活動に取り組んでいる。＜観察＞ (B) 相手が近くにいることを教師から伝えられたり、相手から話しかけられたり歌ってもらったりすると、相手に視線を向けたり、何らかの反応をしたりしている。＜観察＞ (C) 会った先生に視線を向けたり、やり取りをしたりしている。＜観察＞	
	○歩行器を降りて、バギーに乗り換えて振り返りをするための支援をする。	○歩行器を降りて、カーペット上で振り返りをするための支援をする。
	○生徒が本時の学習を振り返ることができるように、タブレットをテレビに接続し、撮った写真や動画をテレビ画面に映す。	○生徒が本時の学習を振り返ることができるように、タブレットを視界に入るように提示する
	○振り返りで生徒が達成感をもつことができるように、取り組んでいる様子の写真や動画を見ながら称賛をする。	
	○称賛時にハイタッチの手を出す。 S：教師に称賛されてハイタッチを返したり身体表現で答えたりする。	○称賛時に、教師の手を視界の中に提示する。 S：教師に称賛されて、身体表現で答える。
5 おわりのあいさつをする (2分)	○「終わりのあいさつをしてくれる人？」と問いかける。 ○あいさつをする意思を示した生徒が、教師と一緒にあいさつができるように「これで自立活動の学習を終わりにします。注目。」と言った後、「礼」の号令を促す。	
	S：号令に合わせて、ハイタッチで礼をする。	S：号令に合わせて、ハイタッチで礼をする。

Ⅲ 第4時の学習

1 ねらい

(A) 歩行器で友達や先生に会う活動を通して、教師とやり取りをする中で、予定の変更に對して納得をしたり受け止めをしたりして、活動に取り組むことができる。

(B) 歩行器で友達や先生に会う活動を通して、相手に視線を向けたり、発声で働きかけをしたりすることができる。

(C) 歩行器で先生に会う活動を通して、教師とやり取りをする中で、会いに行く先生や行先の写真を見て確認して、会った人に顔を上げて視線を向けたり、相手とやりとりをしたりすること

ができる。

2 展 開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動	〔S〕 予想される生徒の反応 ○指導上の留意点 ◆評価項目		
	A (T 1)	B (T 2)	C (T 3)
1 はじめのあいさつをする。 (3分)	<div>○「はじめのあいさつをしてくれる人？」と問いかける。</div> <div>○あいさつをする意思を示した生徒が、教師と一緒にあいさつができるように「これから自立活動の学習を始めます。注目。」と言った後、「礼」の号令を促す。</div>		
	S：号令に合わせて、ハイタッチで礼をする。	S：号令に合わせて、視線や身体表現で礼をする。	S：号令に合わせて、ハイタッチで礼をする。
2 歩行器で友達や先生に会いに行く準備をする。 (10分)	<div>○前時の振り返りをしてから、活動内容や会いに行く人をテレビ画面やタブレット、写真カードで提示して、本時の予定を伝える。</div>		
	S：会いに行く友達や先生、また行先の確認をしたら、教師にハイタッチをする。	S：会いに行く友達や先生、また行先の確認をしたら、移乗時に協力動作を取る。	S：会いに行く先生や行先の確認をしたら、教師とハイタッチをする。
	<div>○活動内容を確認した後、バギーから降りて歩行器に乗る支援をする。</div>		○歩行器に乗る支援をする。
	S：歩行の準備のために、補装具を着用するとき、教師に身体を預けている。 S：SRC-Wに乗って、脚を動かして廊下に向かう。	S：SRC-Wにライダーポジションで乗り、教師の支援を受けて移動する。	S：歩行器に乗って、脚を動かして廊下に向かう。
	<めあて> 予定を確認して、落ち着いて会いに行こう。	<めあて> 相手をよく見て、声を出してあいさつしてみよう。	<めあて> 相手をよく見て話をしよう。
3 歩行器で友達や先生に会いに行く。 【★記録・撮影】 (30分)	<div>○学習の振り返りで活用するために、生徒の活動の様子を写真や動画で記録する。</div>		
	S：教師から提示された人に会いに行くために移動をする。		
	○向かう途中で、会う人や行先の変更を伝える。必要に応じてやり取りをしたり、受け止めのための時間を確保したり、落ち着くことができる場所に移動したりする。 S：予定の変更を受け止めようとしている。 S：変更になった会いに行く人や行先を確認して、写真カードを触ったり、教師へハイタッチで確認の返事をしたりする。	<div>○会う人や行先の写真を再度提示し、生徒が行きたいという気持ちを高めることができるようにする。</div> <div>S：教師から提示された写真カードやタブレットの画像を見て、会う人や行先を再度確認している。</div>	
	S：目的の人と会ってあいさつをしたり、やり取りをしたりする。		
		○相手に視線を向けて注視を	○相手の存在を伝えて、顔を

		したり、うれしい気持ちをもったりすることができるように、話しかけられたり歌ってもらったりする場面を設定する。 ○相手の存在を伝えたり、発声で自分の気持ちを伝えることができるように教師が発声をして促したりする。 S：相手に対して視線を向けて注視したり追視したり、発声で自分の気持ちを伝えたりする。	上げて視線を向けたり、関わりたい気持ちを伝えたりするように促す。 S：相手に対して視線を向けて、一定時間やり取りをする。
○やり取りが終わったときに、さようならのあいさつをするように促す。			
S：ハイタッチであいさつをする。	S：何らかの反応で、あいさつをする。	S：何らかの反応で、あいさつをする。	
○次に会いに行く人の顔写真や行先の写真を提示する。 S：教師から提示された人のところや場所に向かうため移動をする。 ※対象の人や場所を変えることで、いろいろな人に関わることや環境の変化を感じることを目的とし、歩行器で移動し、人に会う同じ活動をさらに2回繰り返す。			
○活動を3回行った後、教室に戻ることを口頭または写真カードやタブレットの提示で伝える。 S：穏やかな気持ちで教室に戻る。			
◆評価項目 (A) 教師とやり取りをする中で、予定の変更を納得したり受け止めたりして、気持ちを落ち着かせて活動に取り組もうとしている。＜観察＞ (B) 相手が近くにいることを教師から伝えられたり、相手から話しかけられたり歌ってもらったりすると、相手に視線を向けたり、発声で働きかけをしたりしている。 ＜観察＞ (C) 顔を上げて会った先生に視線を向けたり、一定時間やり取りをしたりしている。 ＜観察＞			
4 本時のめあてに対して、学習内容を振り返る。 【★写真や動画の視聴】 (5分)	○歩行器を降りて、バギーに乗り換えて振り返りをするための支援をする。		○歩行器を降りて、カーペット上で振り返りをするための支援をする。 ○生徒が本時の学習を振り返ることができるように、タブレットを視界に入るように提示する。
	○生徒が本時の学習を振り返ることができるように、タブレットをテレビに接続し、撮った写真や動画をテレビ画面に映す。		
	○振り返りで生徒が達成感をもつことができるように、取り組んでいる様子の写真や動画を見ながら称賛をする。		
	○称賛時にハイタッチの手を出す。 S：教師に称賛されてハイタッチを返したり身体表現で答えたりする。	○身体に手を添えてBを称賛していることを意識できるようにする。 S：教師に称賛されて、何らかの反応をする。	○称賛時に、教師の手を視界の中に提示する。 S：教師に称賛されて、身体表現で答える。
5 おわりのあいさつをする	○「終わりのあいさつをしてくれる人？」と問いかける。 ○あいさつをする意思を示した生徒が、教師と一緒にあいさつができるように「これで自立活動の学習を終わりにします。注目。」と言った後、「礼」の号令を促す。		

(2分)	S：号令に合わせて、ハイタッチで礼をする。	S：号令に合わせて、視線や身体表現で礼をする。	S：号令に合わせて、ハイタッチで礼をする。
------	-----------------------	-------------------------	-----------------------

IV 第6時の学習

1 ねらい

(A) 歩行器で友達や先生に会う活動を通して、教師とやり取りをする中で、教師の予期しない関わり方や予定の変更に対して納得をしたり受け止めをしたりして、活動に取り組むことができる。

(B) 歩行器で友達や先生に会う活動を通して、相手に顔と視線を向けたり、握手などの身体表現で働きかけをしたりすることができる。

(C) 歩行器で先生に会う活動を通して、教師とやり取りをする中で、会いに行く先生や行先の写真を見て確認して、会った人に顔を上げて視線を向けたり、相手に手を使ってあいさつをしたり自分の気持ちを伝えたりすることができる。

2 展開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動	〔S〕予想される生徒の反応 ○指導上の留意点 ◆評価項目		
	A (T1)	B (T2)	C (T3)
1 はじめのあいさつをする。 (3分)	○「始めのあいさつをしてくれる人？」と問いかける。 ○あいさつをする意思を示した生徒が、教師と一緒にあいさつができるように「これから自立活動の学習を始めます。注目。」と言った後、「礼」の号令を促す。		
	S：号令に合わせて、ハイタッチで礼をする。	S：号令に合わせて、視線や身体表現で礼をする。	S：号令に合わせて、ハイタッチで礼をする。
2 歩行器で友達や先生に会いに行く準備をする。 (7分)	○前時の振り返りをしてから、活動内容や会いに行く人をテレビ画面やタブレット、写真カードで提示して、本時の予定を伝える。		
	S：会いに行く友達や先生、また行先の確認したら、教師にハイタッチをする。	S：会いに行く友達や先生、また行先の確認したら、移乗時に協力動作を取る。	S：会いに行く先生や行先の確認したら、教師とハイタッチをする。
	○活動内容を確認した後、バギーから降りて歩行器に乗る支援をする。		
	S：歩行の準備のために、補装具を着用するとき教師に身体を預けている。 S：SRC-Wに乗って、脚を動かして廊下に向かう。	S：SRC-Wにライダーポジションで乗り、教師の支援を受けて移動する。	S：歩行器に乗って、脚を動かして廊下に向かう。
	<めあて> 予定を確認して、落ち着いて会いに行こう。	<めあて> 相手をよく見て、自分から握手をしてみよう。	<めあて> 相手をよく見て、自分から手を使ってあいさつをしよう。
3 歩行器で友達や先生に会いに行く。 【★記録・撮影】 (30分)	○学習の振り返りで活用するために、生徒の活動の様子を写真や動画で記録する。 S：教師から提示された人に会いに行くために移動をする。		
	○向かう途中で、会う人や行先の変更を伝える。必要に応じてやり取りをしたり、受け止めのための時間を確保したり、落ち着くことができる場所に	○会う人や行先の写真を再度提示し、生徒が行きたいという気持ちを高めることができるようにする。 S：教師から提示された写真カードやタブレットの画像を見て、会う人や行先を再度確認している。	

	<p>移動したりする。</p> <p>S：予定の変更を受け止めようとしている。</p> <p>S：変更になった会に行く人や行先を確認して、写真カードを触ったり、教師へハイタッチで確認の返事をしたりする。</p>		
S：目的の人と会ってあいさつをしたり、やり取りをしたりする。			
<p>○抱っこを求められても応じないように、生徒が会う教師に依頼をする。</p> <p>S：抱っこをしてほしいことを伝えるが、してもらえないことに対して受け止める。</p>	<p>○相手に視線を向けて注視をしたり、うれしい気持ちをもったりすることができるように、話しかけられたり歌ってもらったりする場面を設定する。</p> <p>○相手の存在を伝えたり、握手で自分の気持ちを伝えることができるように会った人に握手をしてもらう場面を設定したりする。</p> <p>S：相手に対して顔と視線を向けて注視したり追視したり、握手などの身体表現で自分の気持ちを伝えたりする。</p>		<p>○相手の存在を伝えて、顔を上げて視線を向けたり手を使ってあいさつをしたり、相手に関わりたい気持ちを伝えたりするように促す。</p> <p>S：相手に対して視線を向けて、手を使ってあいさつをしたり、相手に自分の気持ちを伝えたりする。</p>
○やり取りが終わったときに、さようならのあいさつをするように促す。			
S：ハイタッチであいさつをする。	S：何らかの反応で、あいさつをする。		S：何らかの反応で、あいさつをする。
<p>○次に会に行く人の顔写真や行先の写真を提示する。</p> <p>S：教師から提示された人のところや場所に向かうため移動をする。</p> <p>※対象の人や場所を変えることで、いろいろな人に関わることや環境の変化を感じることを目的とし、歩行器で移動し、人に会う同じ活動をさらに2回繰り返す。</p>			
<p>○活動を3回行った後、教室に戻ることを口頭または写真カードやタブレットの提示で伝える。</p> <p>S：穏やかな気持ちで教室に戻る。</p>			
<p>◆評価項目</p> <p>(A) 教師とやり取りをする中で、教師からの予期しない関わり方や予定の変更を納得したり受け止めたりして、気持ちを落ち着かせて活動に参加している。＜観察＞</p> <p>(B) 相手が近くにいることを教師から伝えられたり、相手から話しかけられたり歌ってもらったり、握手をしてもらったりすると、相手に顔と視線を向けたり、握手などの身体表現で働きかけをしたりしている。＜観察＞</p> <p>(C) 顔を上げて会った先生に視線を向けたり、手を使ってあいさつをしたり関わりたい気持ちを伝えたりしている。＜観察＞</p>			

4 本時のめあてに対して、学習内容を振り返る。 【★写真や動画の視聴】 (8分)	○歩行器を降りて、バギーに乗り換えて振り返りをするための支援をする。		○歩行器を降りて、カーペット上で振り返りをするための支援をする。 ○生徒が本時の学習を振り返ることができるように、タブレットを視界に入るように提示する。
	○生徒が本時の学習を振り返ることができるように、タブレットをテレビに接続し、撮った写真や動画をテレビ画面に映す。		
	○振り返りで生徒が達成感をもつことができるように、取り組んでいる様子の写真や動画を見ながら称賛をする		
	○称賛時にハイタッチの手を出したり、身体表現で伝えたりする。 S：教師に称賛されてハイタッチを返したり身体表現で答えたりする。	○身体に手を添えてBを称賛していることを意識できるようにする。 S：教師に称賛されて、何らかの反応をする。	○称賛時にハイタッチの手を出したり、身体表現で伝えたりする。 S：教師に称賛されてハイタッチを返したり身体表現で答えたりする。
5 終わりのあいさつをする (2分)	○「終わりのあいさつをしてくれる人？」と問いかける。 ○あいさつをする意思を示した生徒が、教師と一緒にあいさつができるように「これで自立活動の学習を終わりにします。注目。」と言った後、「礼」の号令を促す。		
	S：号令に合わせて、ハイタッチで礼をする。	S：号令に合わせて、視線や身体表現で礼をする。	S：号令に合わせて、ハイタッチで礼をする。

V 備 考

参考文献、著作権関係等

- ・長崎自立活動研究会(2019) 「自立活動学習活動内容要素表」
- ・広島県立福山特別支援学校(2023) 「重度重複障害児のアセスメントチェックリスト」
- ・古川勝也編集、一木薫編著(2016) 「自立活動の理念と実践」 ジアース教育新社